20021

PCI 時における IVUS(Volcano)不通過症例の検討

[1]金沢医科大学病院　、[2]金沢医科大学

中川　透[1]、大森　政幸[1]、北山　道彦[2]

【背景】血管内超音波(IVUS)は経皮的冠動脈治療(PCI)における治療方針の決定, 病変の性状に応じた device の選択、end point の決定などに広く臨床応用されている。しかし、IVUS が病変を通過できないこともあり、合併症の原因となることもある。【目的】PCI 時における IVUS 不通過症例の検討【対象】2007 年 5 月から 2008 年 11 月の間に、当院で PCI 時に IVUS を施行した 426 病変、平均年齢は 67.3±9.5 歳、男性 323 例 【方法】不通過症例の使用ガイデングカテーテル、どの冠動脈に IVUS 不通過が多いか、またその部位について検討した。【結果】不通過症例は全体で 27%、冠動脈別では LAD 20.1%(33/164) 、LCx　35.3%(47/133) 、 RCA 27.1%(35/129) であった。LCx は LAD と比較すると有意に通過しにくかった(P<0.05)、RCA は通過しにくい傾向であった。LCx だけをみると、使用ガイデングカテーテルはアンプラッツ系 15.9%、ジャドキンス 31.8%、XB,EBU 52.3%であった。不通過例全体でのロータブレーター使用率は 30.4%であったが、高度石灰化病変でのロータブレーター使用率は 82.4%であった。不通過部位は、#13(56.8%)、 #11(27.8%)、 #12(13.6%)、 #14(2.3%) の順で通過しにくかった。【考察及び結語】Eagle Eye Gold は solid stayed であり、カテーテル先端に最大 64 素子と集積回路があり先端部分が少し固く、屈曲した病変や、石灰化が血管の 1/2 以上あると、ガイデングカテーテルがしっかりかかっているにもかかわらず不通過が多かった。LCx が他の冠動脈と比べて IVUS が通過しにくいのではと思われた。